

2006年8月9日

## 環境省『自然資本 百年の国づくりの提案』で環境大臣賞を受賞 ～「木炭貯蔵による超長期の炭素固定」の提案で一般・論文の部を受賞～

住友林業株式会社（社長：矢野 龍 本社：東京都千代田区丸の内1丁目8番1号）は、環境省が本年元旦に発表・募集した「私が考える自然資本 百年の国づくりの提案」に対して提案した「木炭貯蔵における超長期の炭素固定」の論文がこの度、環境大臣賞を受賞。平成18年8月4日環境省・環境大臣室にて表彰されましたのでお知らせします。

### 【大臣賞受賞内容（概要）】

提案者：住友林業株式会社 環境経営部 曾田 良（そだ りょう）

提案名：「木炭貯蔵による超長期の炭素固定」

概要：日本の歴史上でも明らかなように、木炭の長期保存性に着目。空気中のCO<sub>2</sub>を吸収した植林木を炭化して長期保存するが、その過程で木炭の吸着性能を利用して水を浄化する。そして数百年後のいつか、燃料が枯渇した場合は取り出し、エネルギー資源として改めて再利用する。

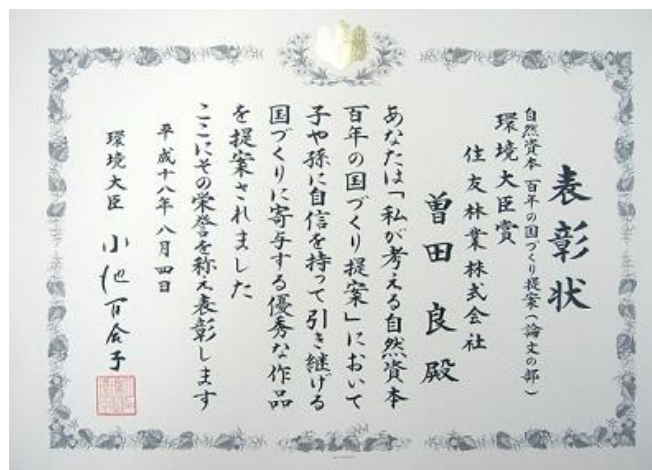
新たなエネルギーを加えず製造できる木炭（以下竹炭含む）の水中保存は、個人や企業が、容易に参画でき、自分自身の目で確認できる温暖化防止対策となります。本提案では、CO<sub>2</sub>吸収固定、水浄化等の環境保護対策だけでなく、竹・間伐材・林地残材の有効利用、途上国における森林経営支援策としての社会的意義を論じた上で、製造可能量やコスト、経済性にも言及し、サステナブル（持続可能）な森林経営として実現可能な温暖化対策であることを示しています。

本提案は「木を植え育て、無駄なく有効に活用し、また植える」ことを標榜する当社ならではの提案であり、木とともに300年以上にわたり培ってきた経験を生かし、社会に貢献する企業文化が認められたものと考えております。

京都議定書第二約束期間（2013年）以降における木炭貯蔵の意義が国際的に認められれば、本件の広範な普及が期待できます。当社は、今後の温暖化対策をめぐる国際交渉に注目しつつ、持続可能な社会の実現に貢献する企業活動を続けてまいります。



<環境大臣賞授賞式>



<環境大臣賞受賞記念 表彰状>

以上

<本件に関するお問い合わせは、下記にお願い致します。>

住友林業株式会社  
コーポレート・コミュニケーション室 佐野・西田  
東京都千代田区大手町1-3-2 (経団連会館)  
TEL: 03-3214-2270